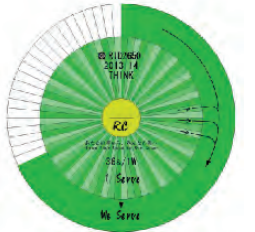




2013-2014 RI テーマ
ロータリーを實踐し、
みんなに豊かな人生を



2013-2014 第2650地区テーマ
—from Your Good to Our Good—
「あなたの善からみんなの善へ」

創立/1954年(昭和29年)6月30日 例会日/毎週火曜日 例会場/武生商工会館
事務局/〒915-8522 越前市塚町101 武生商工会館内 TEL.0778-23-5210・FAX.0778-22-2333 E-mail:takefurc@es.ttn.ne.jp
会長/奥村 忠 幹事/宇野晃成 会報委員長/宮前貴司

報告事項

幹事報告：宇野晃成幹事

- ・第2650地区より地区委員の委嘱状が届きました。
田中 茂 会員：会員増強拡大委員会委員
小泉義廣 会員：インターアクト委員会委員
河嶋 一 会員：青少年奉仕委員会委員
- ・敦賀インターアクト地区大会報告書が届きました。

TRGC(ゴルフ同好会)

4月よりTRGCの活動を再開。今回は4月27日。



地区大会報告 親睦活動委員会

2013~2014年度
国際ロータリー
第2650地区
地区大会
2014年3月29日・30日
国立京都国際会館にて



正面入り口にて



知恩院 御影堂平成大修理



知恩院 御影堂改修工事内見学



知恩院 大鐘楼(日本最大級の釣鐘)



知恩院 法話



知恩院 三門にて



知恩院 三門内部から京都市街を望む



美濃吉での懇親会夕食



豆餅の有名店でお土産



銀閣寺 参拝



銀閣寺の庭園を望む



坂本ガバナー



記念講演「ロボットの奉仕」松野文俊氏



大懇親会

ニコニコ箱 …… 11,000円 累計 957,793円

今日の格言 ニコニコ箱委員長 玉村一男

福沢諭吉(教育者)
努力は「天命」さえも変える。
・ちょっと
・百歳まで17年、さあどう生きるか。
・写真ありがとう。渡辺さん卓話よろしく
・ちょっと

【奥村 忠】
【渡辺佳男】
【河合敏一】
【田中大成】

例会変更情報/福井県内ビジター受付(4月2日~4月15日)

- 4月 2日 鯖江北RC 12:00~12:30 神明苑2F階段横ホール
 - 4月 3日 武生府中RC 12:00~12:30 JA越前たけふ会館1階
 - 4月 4日 福井西RC 12:00~12:30 バードグリーンホテル
 - 4月 8日 若狭RC 12:00~12:30 ホテルせくみ屋
 - 4月10日 福井水仙RC 18:00~18:30 福井パレスホテル
 - 4月11日 福井あじさいRC 12:00~12:30 ホテルリバービューアケボノ
- *変更の無い各クラブの定例会については、ロータリーの友ホームページ等にてご確認ください。

本日(4月1日)の例会
第一例会行事
会長エレクト研修セミナー報告
米岡房直会長エレクト

4月8日
雑誌月間に因んで
広報・雑誌委員長
山田洋三 会員

4月15日→12日
11:30~花筐公園整備作業
13:00~例会
ふるさとの家

4月22日
18:30~ 夜間例会
地区大会報告

第2906回 例会記録 平成26年3月25日(火)

本日出席会員36名

メイクアップ(前々回) 7名

出席率(前々回補正) 78.18%

ロータリーソング「四つのテストの歌」

会員総数
60名

会長挨拶 第60代会長 奥村 忠

久しぶりの夜間例会です。今日は、私の専門領域でもある糖尿病網膜症について述べてみます。皆様の中にも糖尿病にかかっておられる方がおられると思います。中途失明の第2位を占めるのが網膜症で、かつては第1位でした。網膜症は糖尿病の罹病期間が長いほど、また、血糖のコントロールが不十分であるほど、進行していきます。眼底に出血・白斑が生じ、更に進行すると新生血管が生じ、硝子体出血や網膜剥離を生じて失明しますが、かなり重症にならないと視力が落ちないのが曲者であります。



失明を防ぐには糖尿病が発見されたら、必ず眼底検査を受ける必要があります。網膜症がなければ、血糖のコントロールをしながら年一回の定期検診を受けること、網膜症があれば、程度に応じて検査回数を調整して経過を見ていくというのが原則になります。視力低下を起しそうな変化が出てきたら、精密検査をし、必要であれば網膜光凝固術を行います。この時期を逃さないことが重要。硝子体出血・網膜剥離が生じた場合は硝子体手術をすることになりますが、この手術を受けなくてもいいようにするのが大切です。

最後に、失明という事態にならないようにするには、糖尿病のコントロールが優先されますが、網膜症は血糖のコントロールや内服で改善されるものではありませんので、定期的な眼底検査が最も重要であるといえます。

プログラム

会員卓話

いのち 不思議に生命永らえて 一私の生きた昭和一

渡辺佳男 会員

- ・私の生まれ育った家は、武生町並木区八十八番地。善光寺通りは大虫への街道で、自動車は越前海岸をめざすマルタケバスか、丸通のトラック、消防車。ひっきりなしに通るのは、荷物を積んだ馬車か牛車といったところ。
- ・少年時代はまさに軍国一色。小学校の思い出は日々疎くなるが、毎月の大詔奉戴日。早朝の総社での早天修養会等々、断片的ながら甦る。
- ・拍子木の音に近所の子供達が集まってくる紙芝居は、一銭で鉛を貰っての楽しみであった。古刹、正覚寺の境内は、今でも昔の俣だが寺町に通じる広い墓場とともに、夏の蝉採り、冬のスキーと格好の遊び場だった。
- ・小学校時代は戦時一色の六年間。昭和十八年の開戦記念日、各学年で編成した慰問団が兵隊さんを前に合唱や遊戯、芝居を披露したことも思い出す。まさに「勝ち抜く僕等小国民」であり、「欲しがりません勝つまでは」の怒涛の時代であった。戦争の熾烈化とともに、町内や近所でも次々に出征兵士が祖国を後にした。幟を立て、駅まで見送りの行列が続いた。
- ・昭和六年生まれの私は、我ながら酒が飲めて息災で、女房の名前も忘れずに長生きしたものだ。



百までは まだ八合目 沙羅の花 艶子
幸い、古希を過ぎてより医者知らずに、朝の早い商売も苦にならず、休日も月に2回と、老骨に鞭を打つ順調な日が続く。
さて、向後、何としても健康と思考力を維持し、いささかなりと社会への貢献も視野に、見えてきた百歳をめざしたい。